

事務当局が、人事院で基準を決めてくれ、といった細かいことを言っている。お



は三千三百二十三人
(聞き手・社会部次長 石川水穂)

いと思うのは当然です。で、これからもくじけずに、一つの投票にそれほど頑張って書き続けます。こだわりの必要はないので

例えは、選挙区の有権者の引き揚げを主張するから支持されずに落選し、いずれも国際貢献人が、同じ選挙で、今度

経済格差無視できず

去る四月二十九日にシンガポールで合意書の調印がおこなわれた中国と台湾との海峡両岸会談は、きわめて注目すべきものであり、画期的な歴史的意義をもつものである。今回の中台会談は、中国側・海峡両岸関係協会、台湾側・海峡交流基金会という民間関係の形をとりながら、一九四九年以来初めての高レベルの接触であり、一時的なハプニングに終わるのではなく、事務レベルでの恒常的な

ある。一方、台湾側の辜振甫理事長は、わが国とも縁の深い台湾財界の最高指導者であり、その人格と学識によっても慕われている台湾本省出身の国民党中央常務委員

でクローズアップされた辜夫人の厳格な女史は、清末民国初期の中国を代表する著名な知識人・厳復の実孫である。

シンガポールでの中台会談が私が大平洋を隔てて眺めていて強く感じた第一点は、今回の会談が中国と台湾の立場の対等性を際立たせたことであった。この点は会談全般を通じて一貫していたように見受けられ、共同合意書の年号や字体の用い方にまでそれが表れて

九二年十月までの五年間に、延べ五百三十三万人もの台湾の住民が大陸を訪れている。実に台湾人口の四人に一人が大陸を訪れていることになるのだ。同報告によれば、台湾住民の「探親」によるトラベラーズ・チェックの総額だけで、すでに八十四億米がという巨額に達している。いわゆる「一国兩制」を唱えて台北政権を政治実体として認めようとする中国側も、こうした現実を無視すること

はもはや出来ない。台湾のリスクと配慮 第二点は、中国の統一という国家目標ないしは国是を双方ともに掲げているが、当面の現状維持、現状固定による平和共存の方向がより一層明瞭になったことである。この点では、脱社会主義の歴史的潮流のなかで鄧小平氏らの革命第一世代の総退場が迫っている中国側の持ち時間が残り少なくなってきた。

なかで、他方では野党・民進党の唱える「台湾独立」論に直面しながら、一九九〇年秋以来、まず総統府に国家統一委員会、行政院(内閣)に大陸委員会、そして民間機関の形で海峡交流基金を設立し、九二年二月には「国家統一綱領」を採択した。とりわけ意味が大きかったのは、昨年七月の兩岸人民関係条令の制定である。この条令は兩岸関係に存在する戸籍や遺産相続の問題など、民事上の諸事項を規定したものである。しかし、何らかの形で大陸との統一が将来実現するにともあり得るという可能性を一方に残しながら、

正論

米カリフォルニア大客員教授 中嶋 嶺雄

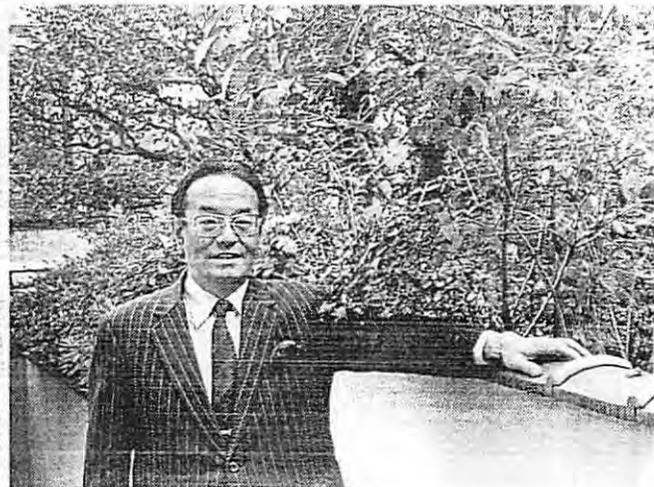
中台の会談で際立つ対等性

当面の平和共存一層明瞭に

人口や国土では台湾は中国大陸と比較すべくもないが、貿易総額はほぼ同等であり、他の経済指標ではいすれも台湾が中国を大きく凌いでいる。こうした現実が今回の会談にも反映していたといえよう。

もっとも、台湾海峡を挟む中台間の交流という点では、圧倒的に台湾の方が優勢である。台湾側の行政院大陸委員会の報告(「兩岸経済貿易の現況と展望」一九九三年三月二十六日)によれば、一九八七年十月の「探親」解禁以来、

「中華民国・台湾の二十年」、「文藝春秋」本年三月号を参照されたい。なお今回はしばしば写真



昨年一年間だけで八十億米が前後の中台間接貿易、五十億米を超え台湾企業の大規模投資増加など、発展した台湾の経済をうまく取り込んで統一にまで持っていくことになっている。となると、台湾の現存が切り崩されかねないリスクを伴うだけに、今回の会談に至るまでの台湾側の配慮は並大抵ではなかった。

いすれにせよ、台湾が中国との関係において対等の存在となり、また最近では米通商代表(訪問時)のヒルズ女史の訪台をはじめ世界各國が台湾との交流を深めているだけに、年間百三十億米もの貿易黒字を稼ぎながら台湾との高次の政府間接触を依然として断ったままの日本の姿勢がいよいよ問われることになるのではなからうか。

(なかじま・みねお)

「中華民国・台湾の二十年」、「文藝春秋」本年三月号を参照されたい。なお今回はしばしば写真

「中華民国・台湾の二十年」、「文藝春秋」本年三月号を参照されたい。なお今回はしばしば写真

「中華民国・台湾の二十年」、「文藝春秋」本年三月号を参照されたい。なお今回はしばしば写真

「中華民国・台湾の二十年」、「文藝春秋」本年三月号を参照されたい。なお今回はしばしば写真

「中華民国・台湾の二十年」、「文藝春秋」本年三月号を参照されたい。なお今回はしばしば写真